

鬼北町立広見中学校

道徳通信

NO. 12

令和7年7月14日発行

よりよく生きる

1年生 道徳授業の紹介

旗（読み物資料）



【資料のあらすじ】

転校してすぐ交通事故に遭い、寂しく家で過ごす主人公の少女は、窓の外に ひるがえ 翻るレモンいろの旗を見ることが日々の楽しみになる。ある日、クラス旗に使う布をもらいに来た友達に、旗を見る楽しさなどを話すが、その後連絡がなくなる。登校を再開する前日、少女は、自分の渡した布を中心に据えたクラス旗がはためいているのを目にする。翌日登校すると、クラス全員に拍手で迎えられ、この町に引っ越してきてよかったと、心から思った。

旗を見ながら、少女は何を思っただろう。（生徒の意見）

- ・少女は、うれしくなったと思う。真ん中に自分の布があると、みんなが待ってるよと語り掛けている感じがする。
- ・うれしい。私は一人じゃないんだ。私達だけの旗だ。世界にたったひとつだけの旗だ。
- ・自分の布が真ん中であって、みんなに支えられているような気がした。自分もクラスの一員なんだと認められているようで、うれしい気持ちになった。

今日の学習を通して学んだことや感じたことを書きましょう。

- ・クラスというのは、相手を認めたり、理解したりすることだと思う。クラスメイトを大切にしたり、相手を喜ばせたり、安心させられるような存在でいたい。相手の気持ちより大切なものはないので、自分も相手の気持ちも大切にしたい。
- ・1-2の学級目標のように、このクラス旗は一人でも欠けたらいけない、みんなが大切な存在だということを伝えていると思う。
- ・けがをして学校に来ることができなくても、クラスの一員なんだと認め合える関係が、本当の友情なんだと思った。どんな友達も、認め合えるんだと思った。

今回の授業は、愛媛県教育センターの渡部先生にお越しいただき、授業を見ていただくとともに、授業のアドバイスもしていただきました。1年2・4組の生徒たちが、意欲的に話し合い活動に参加し、そして自分の意見を自分の言葉で丁寧に発表している姿をすばらしいと褒めていただきました。

真の友情とは、相互に変わらない信頼で成り立ち、相手に対する敬愛の念がその根底にあります。信頼とは、相手を信じ頼ることであり、それを相互に向けられたところから友情が生まれるのかもしれない。